

2015年度 松本衣デザイン専門学校自己評価結果

2015年度の自己評価の実施状況及び結果は次のとおりでした。

1 対象期間 2015年4月～2016年3月

2 評価方法

自己評価・自己点検調査表への記述による自己評価・自己点検

【学校職員・講師 11名(うち常勤職員5名)】

3 自己評価・自己点検項目

2015年度の取組について、学校教職員が本校の理念・目標に照らして自らの教育活動、その他の学校運営の状況等について自己評価を行った。

(評価項目及び評価方法)

国のガイドラインを参考に次の13領域について複数の評価・点検項目を設定し、取り組み状況をSD法で評価し平均値を求め評定数値とした。

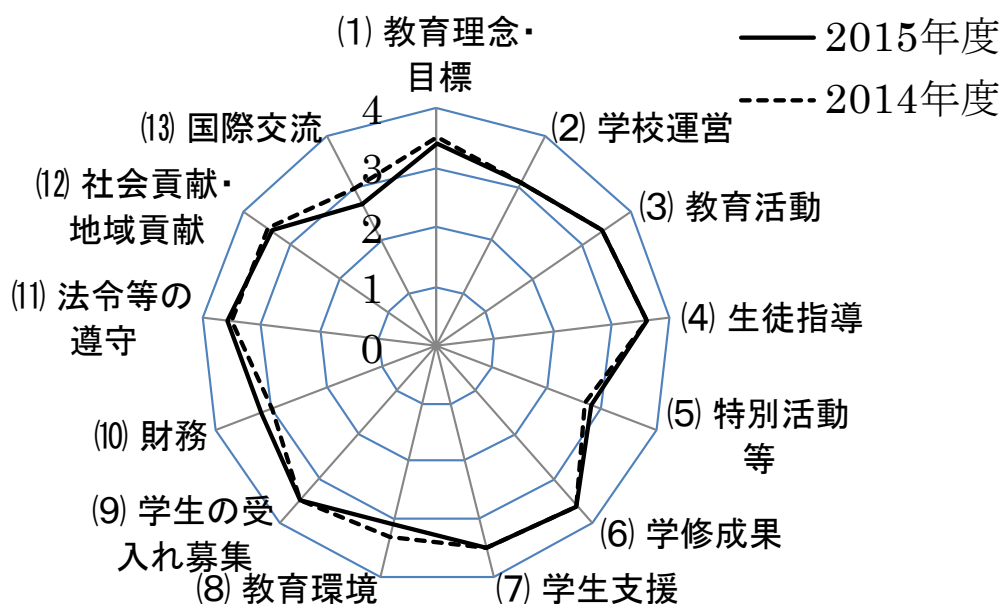
・13領域：(1)教育理念・目標、(2)学校運営、(3)教育活動、(4)生徒指導等、(5)特別活動等、(6)学修成果、(7)学生支援、(8)教育環境、(9)学生の受け入れ募集、(10)財務、(11)法令等の遵守、(12)社会貢献・地域貢献、(13)国際交流

・SD法：4・適切 3・ほぼ適切 2・やや不適切 1・不適切 (中央値は2.5)

4 結果

◆全体的傾向

13領域における個別評価項目の平均値を算出して各領域の評価値とし、レーダーチャートで示した。総合評価を前年度と比較すると、若干の変動はあるが全体的な傾向としてほぼ同様の評価結果となった。



◆項目別の評価結果

(1) 教育理念・目標

○取組状況

- ・教育目標を学則に次の通り明記している。
「本校は、高等教育における教育の基礎の上にファッション・ビジネスに関する専門教育を教授し、その知識と技術を習得攻究せしめると共に、あわせて生徒の教養を深め人格を高めることを目的とする。」
- ・学生が目指すべき精神は、「自立 協調 デザインの力を理解する」とし、オリエンテーション(年8回)で伝えるとともに、入学時に配布される [i] design policy -学校生活の手引き- にも記載している。教職員には講師会議でも折に触れ伝達しており、保護者へは入学前の学校見学时、入学オリエンテーション(入学式)、卒業・進級の会(卒業式)等を通じて伝達、学外にむけては、本校ホームページに学則を公開し、周知している。

○評価結果 3.4 (3.5) ※各評価項目の評定値の平均、()内は前年度評定値

- ・学校の理念・目的・育成人材像は明確か 3.6(3.8)
- ・学校における職業教育の特色は何かわかっているか 3.6(3.7)
- ・社会経済のニーズにこたえられているか 3.4(3.6)
- ・学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者などに周知されているか 2.9(3.0)
- ・各学科の教育目標・育成人材像は学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 3.3(3.2)

○課題・改善の方向性

- ・時代と共に変化する社会経済のニーズを踏まえた人材教育をしていくため、産学連携をさらに進め学内へのフィードバックを計画的に行っていく。

(2) 学校運営

○取組状況

- ・長野県と文科省、厚労省の監督下にあり、予算書・決算書等の提出義務他、法人や学校に変化・変更のある場合には随時、申請、承認、認可を受けている。
- ・年度ごとに事業計画書を作成し、理事会、評議員会に諮り、事業計画書の承認及び運営方針の決定後、講師会議を通じて全教職員へ周知される。
- ・業務については、教務会議にて適宜内容や教育活動が報告され、見直しや検討がされる。
- ・情報システム化においては全職員にPCが配布され業務の効率化を図っている。

○評価結果 3.1 (3.1)

- ・目的に沿った運営方針が策定されているか 3.5(3.3)
- ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか 3.2(3.3)

- ・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化されているか有効に機能しているか 2.7(3.2)
- ・人事、給与に関する規定などは整備されているか 3.1(3.3)
- ・業界や地域社会などに対するコンプライアンス体制が整備されているか 3.2(3.0)
- ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか 2.7(2.5)

○課題・改善の方向性

- ・全職員が共有できる学校運営の最適化やモチベーションの向上を推進していく。

(3)教育活動

○取組状況

- ・企業連携を進め、業界のニーズに対応すべく実践的な教育内容となっている。必修科目の「企業研修(インターンシップ)」では企業担当者から提出いただく「企業研修終了届」の意見を踏まえカリキュラム(教育課程)に反映しているが、今後も時代の要請に対応していく。
- ・新入生に関しては、I学期終了後に「学生による授業評価アンケート」を実施している。これは、FD(ファカルティ・デベロップメント)の第一歩として、教員自らが授業の内容や教授方法を改善する目的のもと、10年以上継続している。
- ・シラバスの整備は10年以上前から全ての科目で実施しており、到達目標、授業計画、認定基準、成績評価の方法を学生や保護者に周知している。「[i] design policy -学校生活の手引き-」や、「単位表」でも単位数等を明記している。
- ・本校は日本ファッション教育振興協会長野県支部となっており、日本ファッション教育振興協会主催の全ての検定の申込と受験が可能である。
- ・職業能力開発協会主催 技能検定は、厚生労働省の認可を受けた学科のみが受験資格を有するもので「商品装飾展示作業」は、長野県で唯一受験が可能である。本校での授業時間数が「実務の経験年数」とみなされているからである。
- ・フォーマルウェア検定についても、県下で唯一の受験資格を有する。また各検定の合格者や合格率に関しては、ほぼ全ての講師が把握している。

○評価結果 3.4 (3.4)

- ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか 3.5(3.4)
- ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3.3(3.3)
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 3.4(3.5)
- ・関連分野の企業・関係施設や業界団体との連携により、カリキュラムの作成、見直しなどが行われているか 3.1(3.3)
- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習など)が体系的に位置づけられているか 3.0(3.5)

- ・授業評価の実施、評価体制はあるか 3.6(3.4)
- ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取りいれているか 3.6(3.4)
- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 3.4(3.7)
- ・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 3.8(3.7)
- ・関連分野における先端的な知識・技能を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか 2.9(2.9)

○課題・改善の方向性

- ・先端的な知識・技能を習得するための取組(企業授業、企業講師など)を推進していく。

(4)生徒指導等

○取組状況

- ・様々な機会、手段により学生とのコミュニケーションを密に図る中で生徒指導を行っている。
- ・生徒の安全確保のため災害傷害保険に入っている。
- ・ひとり暮らしをする学生への支援として、不動産屋物件の相談、生活状況や欠席に留意し、保護者との連携をとっている。
- ・学費に関しては、本校独自の学費サポート制度を整備し多くの学生が利用している。分割納入も可能としている。奨学金は、日本学生支援機構の奨学金を活用している。
- ・就職に関する体制を整備し、就職サポート科目(「就職オリエンテーション」「ビジネス常識」「企業研修(インターンシップ)」)だけでなく、就職模試の実施、就職情報の提供、個別相談や指導を細やかに行っている。

○評価結果 3.6 (3.6)

- ・基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか 3.6(3.6)
- ・生徒の安全確保のための取組等(災害共催保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援など)が行われているか 3.6(3.4)
- ・生徒・保護者からの相談体制が整備されているか 3.5(3.5)
- ・進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか 3.6(3.7)

○課題・改善の方向性

- ・生活習慣やメンタル面に起因して学習の継続が困難になっている学生に対しては、保護者と連携した相談・支援体制を続けていく。

(5)特別活動等

○取組状況

- ・小規模校であるため、クラブ活動ができる状況ではないが、授業時間外の特別活動について希望者が1人であっても教職員が支援する体制がある。「ユニバーサル・デザイン・プロジェクト」

エクト」は15年間継続している。

○評価結果 2.8 (2.7)

- ・クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか 3.0(2.8)
- ・保護者会等と連携した活動を推進しているか 2.6(2.5)

○課題・改善の方向性

- ・学生が授業外において自主的に学外での活動を通じて学ぶことは貴重な経験となるため、保護者の協力を得ながら引き続き奨励、支援していく。

(6)学修成果

○取組状況

- ・就職では2015年度3月卒業生の就職率は100%、その内アパレル業界は90%であった。
- ・資格取得(検定合格)の流れを主軸にカリキュラム(教育課程)を整備している。検定直前の補習や、模試、授業時間外の個別指導等を実施しており、全国トップレベルの検定合格率を維持している。
- ・退学を出さないために、欠席者との面談、メールや電話での連絡を行い、特にひとり暮らしの学生へは保護者と連携をとっている。

○評価結果 3.6 (3.6)

- ・就職率の向上が図られているか 3.8(3.7)
- ・資格取得率の向上が図られているか 3.9(3.8)
- ・退学率の低減が図られているか 3.2(3.6)
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか 3.6(3.5)
- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 3.5(3.3)

○課題・改善の方向性

- ・退学の理由としては、メンタル面、学習意欲の低下、経済的事情などがあるが、退学者を出さないために保護者との連携を密にし、相談・支援体制の充実化を図っていく。

(7)学生支援

○取組状況

- ・学校独自の特待生制度や学費支援制度を設け、経済的な課題を抱える学生への支援を実施し、多くの学生が利用している。
- ・就職面においては、各学科が卒業の前年度に就職オリエンテーションを開始し、就職年度では随時学生と個人相談に応じる体制が整っている。
- ・就職試験模試(筆記試験、面接)を年6~8回実施している。

○評価結果 3.5 (3.5)

- ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか 3.6(3.6)
- ・学生相談に関する体制は整備されているか 3.6(3.6)
- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 3.6(3.5)
- ・学生の健康管理を担う体制はあるか 3.2(3.4)
- ・保護者と適切に連携しているか 3.4(3.2)

○課題・改善の方向性

- ・学生の心身の健康管理、特にメンタル面に起因して学習の継続に課題のある学生に対し、保護者と連携した相談・支援体制を続けていく。

(8)教育環境

○取組状況

- ・商業施設が集中した立地であり、ファッションビジネスを学ぶには最適な場所である。
- ・学校敷地面積は狭いものの、学生一人に対する床面積は相当広い。
- ・施設・整備に関しては、計画的にメンテナンスを行っている。
- ・科目:企業研修(インターンシップ)を10年以上前から必修としている。
- ・防災管理担当者(建物管理担当者)を配置し、防災に対する準備がなされている。防災に関しては、学生へはI学期始業オリエンテーション時に、教職員には新年度講師ミーティングにて避難方法等を確認している。
- ・学生と教職員を対象にした防災訓練を年に1回開催している。また「緊急連絡メール」を整備し、緊急時の学生との連絡体制がある。

○評価結果 3.1 (3.3)

- ・施設・設備は教育上の必要性に充分対応できるように整備されているか? 3.0(3.1)
- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか 3.2(3.5)
- ・防災に対する体制は整備されているか 3.2(3.3)

○課題・改善の方向性

- ・校舎が築20年を経過し、今後特に設備面での老朽化が進行していくため計画的な更新をしていく必要がある。

(9)学生の受け入れ募集

○取組状況

- ・パブリシティは積極的に行い学校のPRや活動を地域社会に伝えている。
- ・年間約40校の高校訪問を実施し、進路担当の先生にファッション業界で働くことや本校で学ぶことについての理解を深めてもらい高校生へのアドバイスをお願いしている。

- ・入学希望者および保護者のニーズに対して適切に行われている。学校案内、募集要項等については、毎年改定し、読みやすさや分かりやすさを考慮しているが、今後も読者の視点にたったものを作成していく。
- ・進路状況や就職率、検定合格率は学校案内等に掲載し、学生募集に役立てている。
- ・入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・学納金は、長野県内のファッション系専門学校とほぼ同額の金額を設定している。
- ・学校独自の特待生制度や学費支援制度について募集要項やHPで伝えている。

○評価結果 3.5 (3.5)

- ・学生募集は適正に行われているか 3.4(3.3)
- ・学納金は妥当なものとなっているか 3.6(3.6)

○課題・改善の方向性

- ・本校の強みを活かした学校のブランド化を進め、「入りたい、目指したい学校」のイメージを打ち出すことや広報の工夫等により入学者増に結びつけていく。
- ・アパレル業界はグローバル化に伴う業態の構造転換期にあり多様かつ複雑であるため、一般社会からは職業像としてわかりにくいことから、様々な手段でリテラシーを上げていくことが必要である。

(10)財務

○取組状況

- ・財務状況をホームページ上で公開している。
- ・公認会計士から適宜アドバイスを受けて財務管理を行っている。

○評価結果 3.2 (3.0)

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 2.6(2.3)
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3.0(2.5)
- ・財務について会計監査が適切に行われているか 3.6(3.4)
- ・財務情報公開の体制整備はできているか 3.5(3.7)

○課題・改善の方向性

- ・2018年以降18歳人口が漸減していく現象(2018年問題)を見据え、中期経営計画等における検討が必要である。

(11)法令等の遵守

○取組状況

- ・学校が保有する個人情報の保護を徹底している。
- ・自己評価結果、学校の財務、学則を公開している。

○評価結果 3.6 (3.5)

- ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3.5(3.3)
- ・自己評価結果を公開しているか 3.6(3.6)

○課題・改善の方向性

- ・今後もコンプライアンス遵守の体制強化を継続的に図っていく。

(12)社会貢献・地域貢献

○取組状況

- ・本校は他の教育機関や、企業・団体と関わりをもち、交流を図っている。2015年度は、MIDORI 松本店、松本献血センター、八十二銀行松本営業部、ノイエ(大名町のカフェ)で学生作品の展示および、学生作品の貸出しを行った。
- ・講師派遣としては、学校法人松商学園松商短期大学や、学校法人未来学舎 専門学校未来ビジネス ペットライフケア学科へは、長年にわたり講師を派遣し、松本市内の企業での社員研修の講師を派遣した。

○評価結果 3.4 (3.5)

- ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか 3.6(3.5)
- ・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか 3.6(3.5)
- ・地域に対する公開講座、教育訓練の受託などを積極的に実施しているか 3.1(3.5)

○課題・改善の方向性

- ・今後も可能な限り社会貢献・地域貢献を行っていく。

(13)国際交流

○取組状況

- ・地方にありながら、ほぼ毎年海外への留学者がいる。留学先はイタリア、イギリス、フランスなどにわたり、現地で活躍する卒業生も数多くいる。

○評価結果 2.7 (3.0)

- ・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか 2.7(3.1)
- ・学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか 2.7(2.9)

○課題・改善の方向性

- ・東南アジアからの留学生の志向が日本の大学から専門学校へとシフトする中で、地域の専門学校等との連携等、取組を模索する必要がある。